

6. 今後の取り組むべきこと

本部会の議論は、折尾のまちづくりにおいて関連が深い、折尾駅舎をはじめとする、歴史的建造物をどう保全・活用すべきかについて提案したものです。

今後は、これら歴史的建造物の保全・活用の実現に向け、おりお未来21協議会を中心に私たち地域が主体となって、行政と協働しながら下記のような条件を解決することが不可欠です。

<歴史的建造物の保全・活用実現に必要なこと>

- 復元に必要な費用の算出及びその財源確保
- 地域が主体となった歴史的建造物を管理・運営する組織の設置

(1) 折尾駅舎の保全・活用に向けて

折尾駅舎の保全・活用に向けて、今後、次の事項について検討を進める必要があると考えます。

① 詳細な調査の実施

- ・駅舎の文化財指定の検討も含め、復元にあたっての関連する法令に対する検証が必要です。
- ・平成19年度に実施したJR九州の折尾駅調査は現況把握のための調査です。そのため、折尾駅舎の文化財としての価値や、指定する部分、復元の対象とする時期などについて詳細な検討が必要です。
- ・本部会でも各種の復元方法とその概算費用について検討を行いました。事業化の段階で詳細な調査により、復元の方法とその費用、そして、費用負担について検討する必要があります。
- ・事業に伴い一旦解体した部材の保管場所と保管期間（費用等）を検討する必要があります。

② 財源や運営組織

- ・駅舎の復元にあたっては多大な費用がかかるため、そのための財源の確保が必要です。
- ・復元に向けて、地域が主体となって行政との協働により事業を推進するための組織づくりが必要です。
- ・地域のシンボルとして、生きた施設、地元が長く使える施設とするため、地域が主体となった運営を行う仕組みづくりが重要です。
- ・継続的な施設の維持管理を考慮すると、収益を生み出す機能導入（商業等）や、維持管理費低減のための仕組み・組織について検討する必要があります。

③ 復元場所選定における留意点

- ・南口駅前広場内に復元可能となり、かつ、復元までの期間を少しでも短縮させるために、他の工事工程との調整など、様々な方策を検討する必要があります。
- ・復元場所の検討にあたっては、石炭輸送が舟運から鉄道に転換した歴史的経緯を踏まえて、折尾駅舎と堀川との関係性が重要です。
- ・ねじりまんぼなどの他の歴史的建造物との関連性についても、検討する必要があります。

(2) ねじりまんぼの保全・活用に向けて

ねじりまんぼの保全・活用に向けて、今後、次の事項について検討を進める必要があります。

① 保全方法

- ・歴史的な価値を検証し残すべき範囲を検討するとともに、技術的な復元方法などの検討が必要です。
- ・再現する場合には、再現するスケールや材料（現材料、新材）などについて検討する必要があります。

② 保全場所

- ・保全する場所を確保する必要があります。

(3) その他の留意点

本部会では検討の対象としませんでした。遠賀川流域の石炭産業遺産を考える上では、折尾駅と堀川の関係は重要なものです。そのため、堀川の再整備を行う場合には、堀川の歴史的な経緯を踏まえた整備が望まれます。